

http://www

全国 R・J グレード部会情報誌

かしめ

2013年 3月 15日
7号

発行：全国 R・J グレード部会連絡会
事務局 東京鉄構工業協同組合

発行責任者：松枝 建次

住所：東京都中央区八丁堀 3-9-5

電話：03(5566)1595 FAX:03(5566)1597 E-mail:jimukyoku@tsfa.jp

浜岡原発の津波対策壁建設工事を見学

浜岡原発の津波対策
工事視察

全国 R・J グレード部会連絡会は昨年 11 月 22 日に静岡県浜岡
原発の津波対策防波壁の建設現場を見学会を実施しました。この
見学会に大阪、京都、三重、山梨、千葉、東京、地元静岡などか
ら会員 33 名が参加しました。

津波対策工事の見学
会を主催して

浜岡原発津波対策工
事視察に参加して

京都 R・J 部会報告



浜岡原発見学タワーより津波対策壁を望む参加者

『かしめ』は全国 R・
J グレード連絡協議
会の情報誌です。会員
と全国の組合事務局
にメール発信してい
ます。記事の投稿をお
待ちしています。事務
局は東京鉄構工業協
同組合です。



浜岡原発津波対策壁工事の見学会を主催して

全国 R・J グレード部会連絡協議会
幹事 水野 勝也

今回の静岡での RJ 部会の研修会と交流会を企画させて頂きました。静岡県の水野建設工業(株)の水野勝也と申します。

当日は、33名もの多くの参加を頂きまして誠にありがとうございます。

昨年前半、東京での役員会議の中で研修場所の検討をしている議題の中、今世の中でも一番注目度の高い原子力発電所の津波対策工事の見学を提案させて頂きました。

中部電力浜岡原子力発電所は、”世界で一番安全な発電所を作る”をスローガンに取り組んでいる発電所です。現実、1500億円もの投資をして安全対策に取り組んでいるのは、全国の原子力発電所の中でも浜岡だけなのです。



交流会で挨拶する水野勝也 静岡県 RJ 部会会長



松枝建次 全国 RJ 部会会長

今回の一番の狙いは、防波壁が鋼製とコンクリートの複合構造の特殊工法(JFE スチール製)の構造でもあったことからファブリケーターの皆さんに、物づくりのプロ専門家の目線で防波壁や水密扉(鋼製)等を見て欲しかったこと、そしてメディアを通してでしか知りえない原子力発電所の現場、日本の社会が直面しているエネルギー問題に対応している原子力発電所の現実を生目の目で確認して欲しかったことです。

私は、政治は政治のプロが、法律は法律のプロが、物づくりは物づくりのプロが行う事が本来であると常々考えています。

RJの皆さんは、資本や規模は小さいが門外不出の技術を持っていたり、環境適応能力がとび抜けて高かったりと自社独特の秘伝のたれを持っているはずで。

交流会では、8都道府県の会員メンバーが積極的に情報交換をし、有意義な時間が取れたと思っています。

最後に、今回の企画に理解をして頂き、協力をして頂きました静岡県鐵構組合の松尾理事長様小池副理事長様、RJ静岡のメンバー、8都道府県のRJ部会のメンバーの皆様へ感謝申し上げます。

浜岡原発津波対策防波壁工事視察に参加して

全国R・Jグレード部会連絡協議会
相談役 杉本 豊

昨年11月、静岡県浜岡原子力発電所の津波対策防波壁新設工事の視察会を静岡県のR・Jグレード部会会長の水野氏のご尽力により開催することができました。立地は当然のことながら交通手段の難しい場所で、地元の水野建設工業さんのバスを出していただき、大変お世話になった次第です。

研修会には東京、千葉、山梨、群馬、静岡、大阪、京都、三重等から33名が参加しました。

通常の見学者は原子炉や防波壁の模型、展望台からの見学までですが、特別な計らいのもと、バスで発電所構内へ入り、原発中央制御室、原子炉建屋防波壁（立壁）取水槽海水系ポンプ防水壁、緊急時海水取水設備、大物機器搬出入口そして核燃料棒を眠らせておくプール迄見学させていただきました。

当然のことながら、原子炉建屋内部に入る際にはボディチェック、X線チェックの厳重な検査、そして名刺提出でした。

今回見学会の目的は、津波対策防波壁ですが、ほぼ90%の仕上がりで全長1.6Km、海拔18mの防波壁を設置、壁厚2m、壁部は鋼材と鉄骨鉄筋コンクリートの複合構造のL型壁を採用する事で地震や津波に対し十分強い構造としています。

基礎は深さ30mの鉄筋（D51）コンクリート製。鋼製たて壁内部下半分はコンクリート打設、上半分には重量の軽い樹脂が充填されています。また、年内に完工予定でありましたが、私たちの見学した1ヶ月後より追加壁高さ4mの工事が始まり、高さ海拔22mに成ることになっています。これで浜岡原発は東南海地震に対して完璧である事を願いたい。

京都府 R・Jグレード部会報告

全国R・Jグレード部会連絡協議会
幹事 松田 浩二

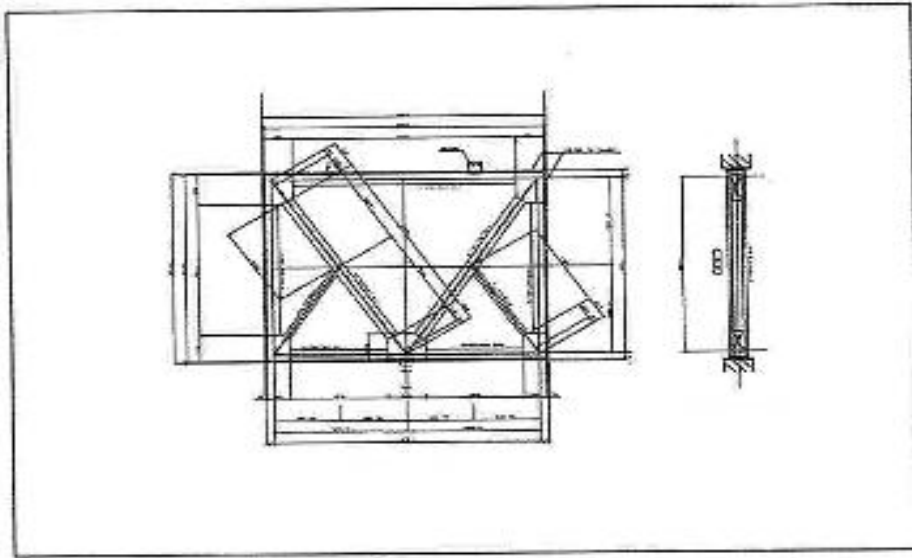
京都ではRJ会が発足して11年を迎えました。京都市では小中学校の耐震補強工事（Kブレース）は全国的に先駆けで着工されました。

しかしながら、残念なことに京都市のグレード指定ではMグレード以上の表示になっておりRJ会の活動の中で幾度も機会を設けて認定制度をしっかりと見据えた指定を行って欲しいと要請を行ってきました。少しは緩和されましたが、Kブレースなどは変わっていません。

京都府下の市町村ではしっかりと認定制度を理解していただいてRグレード指定をされている市もあります。

京都府城陽市では耐震補強工事はほとんどRグレード以上の指定がされています。全国的には認定制度への理解はまだまだ不十分だと思います。さらなる理解を深めるために全国R・J

部会連絡会の活動が求められます。



城陽市で近年幾度か受注させていただいたKブレース

編集後記

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 暫時も止まらずに槌打つ響
飛び散る火の花 はしる湯玉
鞆の風さえ息をもつかず
仕事に精出す村の鍛冶屋</p> | <p>(2) あるじは名高きいつこく老爺
早起き早寝の病知らず
鐵より堅しと誇れる腕に
勝りて堅きは彼が心</p> |
| <p>(3) 刀はうたねど大鎌小鎌
馬鋤に作鋤(さくくは)鋤よ
平和の打ち物休まずうちて
日毎に戦ふ懶惰(らんだ)の敵と</p> | <p>(4) 嫁ぐにおひつく貧乏なくて
名物鍛冶屋は日に繁昌
あたりに類なき仕事のほまれ
槌打つ響にまして高し</p> |

これは戦前から歌われてきた小学校唱歌「村の鍛冶屋」である。改めて歌詞を詠んでみると実に味のある唱歌である。全国R・Jグレード部会連絡会のテーマソングにぴったりではないか。

R・Jグレードの会員の皆さんは、地域(村)に根ざした仕事をこなし、地域社会になくてはならない職である。仕事に誇りを持つ無名の「いつこく(頑固)老爺」が、地域住民(村人)のために日に日に仕事に励んでいる姿はR・J部会の会員のみなさんとダブって見える。槌打つ響が溶接のバナーの音やガウジングの音に変わっているが、現在(いま)も昔も勤勉に働く光景は同じである。鍛冶屋(鉄工所)は、村(マーケット)で唯一の工業で大鎌小鎌(住民のニーズある物)を製造し地道な商売(営業)を行ってきた。地域社会にとって昔も現在(いま)も必要不可欠な業種なのである。こんな業種が日に日に繁昌して行く社会になって欲しいものである。

ちなみにこの唱歌は昭和17年に平和を歌う三番以降の歌詞が戦時下の国策に合わないとして削除されたそうである。